

県議会だより いしかわ

思わずニッコリのおいしさ 石川生まれの新品種 ひやくまん穀

最優秀賞

石川県が9年の歳月をかけて開発したコメの新品種「石川65号」の名称が「ひやくまん穀」に決まり、いよいよ10月5日から県内の約250店舗で販売が始まりました。

大きな米粒に「ひやくまん」の文字で笑顔をデザインしたインパクトのあるパッケージが目印です。ひやくまん穀は粒の大きさが自慢の品種で、もちりとした粘り強さも合わせ持っています。また、時間がたっても硬さや粘りの変化が少ないため、炊き立てだけではなく、おにぎりなどにして後から食べても、とてもおいしくいただけます。

石川県には特色ある野菜や果実、新鮮な魚介類など、全国に誇れる農林水産物がたくさんあります。地元で採れた食材を地元で消費することは、安全安心につながるだけでなく、地域の農林水産業が元気になります。

県議会では、これからも「ひやくまん穀」をはじめとする県産食材の生産拡大と地産地消の推進に向けて、積極的に取り組んでいきます。

※表紙に掲載する写真5点は「ひやくまん穀 笑顔写真コンテスト」の入選作品です。



今号のトピックス

● 県議会ダイジェスト Vol.4
県民の声を県政に届けよう!

● ふれあい親子県議会教室
69組が参加! 議員と交流し、議会を学びました

県議会ダイジェスト

Vol.4

県民の声を県政に届けよう!

年4回の定例会や毎月開催される常任委員会などで意見を述べたり、質疑を行うことで県民の皆さんの思いを県政に届け、さまざまな県の取り組みに反映させることが、議員の最も重要な役割のひとつです。

これまでの論戦について、第19号から今号までの4回シリーズで特集しており、今号では、6期以上の10人の議員について定例会・委員会での質疑応答の一部を掲載します。

なお、県議会だよりのバックナンバーやその他の県議会定例会・委員会での質疑応答は、県議会ホームページや議会図書室で閲覧できます。

※ 県議会ホームページは「石川県議会」と検索してください。
スマートフォンやタブレット型端末でもご利用いただけます。



会派名

自由民主党：自由民主党石川県議会議員協議会
未来石川：未来石川議員会

< 議員は期別、年齢順に並んでいます。 >

山田 省悟

やまだ しょうご

6期 自由民主党



高松病院管理診療棟の建て替えについて

Q 高松病院の管理診療棟は老朽化と狭隘化が進んでおり、建て替えを検討する時期に来ていると考えるが、所見を聞く。

A 廊下やトイレ等のバリアフリー化、年齢や症状に配慮した受診環境の整備等が課題と考えており、今後改築に向けた具体の検討を進めていきたい。

Q 能登地域への農業分野における企業進出に対する考え方を聞く。

A 能登地域には世界農業遺産認定以降、県内外から23の企業、農業法人が進出しており、先般も中能登町に新たな植物工場建設の表明があった。今後とも農業参入支援ファンドを初めとする支援策を積極的に活用し、能登地域の活性化を農業面から力強く推進していきたい。

和田内 幸三

わだうち こうぞう

7期 自由民主党



七尾港の振興について

Q 七尾港で計画される緑地整備の内容と今後のスケジュールを聞く。

A 大規模地震発生時における緊急物資の集積や一時保管用地、臨時のヘリポート、救援・復旧活動の拠点用地を計画しているほか、平常時には地域住民等がくつろげる緑地とする。国や七尾市と連携し、早期の工事着手に向けて取り組みたい。

Q 能登半島地震発生から10年の節目を迎え、改めて県民へ防災意識の徹底を働きかけていくべき。

A 能登半島地震から、自助、共助による地域防災力の強化が何よりも重要との教訓を得た。共助のかなめとなる防災士の育成を進めているほか、自助を促すため県民一斉防災訓練の実施やチラシ等による啓発を続けている。

石田 忠夫

いしだ ただお

7期 自由民主党



増穂浦海岸の浸食対策について

Q 増穂浦海岸の歴史ある美しい海岸線を保全するため早急な対策が必要と考えるが、対応を聞く。

A 浸食対策の検討に向けて平成28年度から基礎的な調査を実施しているが、レクリエーション利用や景観への影響についても総合的に勘案する必要がある。志賀町とも協議しながら着実に浸食対策の検討を進めていきたい。

Q 能登の沿岸でとれる天然フグを漁業振興の起爆剤とするための対策を聞く。

A 七尾地区や輪島地区を中心とした天然フグの有効活用の取り組みに対し、県ではいしかわ里山振興ファンドを活用した商品開発や百万石マルシェ等を活用した販路開拓などにより支援している。

向出 勉

むかいで つとむ

8期 自由民主党



ICT建設機械の活用について

Q ICT建設機械の活用効果と今後の展開について聞く。

A 従来型施工による工事と比較して効率化が認められ、安全性も向上するほか、今後の熟練技術者不足への対応としても期待している。引き続きモデル工事の検証を進めるとともに、ICTに関する研修会の開催等にも取り組んでいきたい。

Q 主伐材の利用促進に向け、今後どのように取り組んでいくのか聞く。

A 主伐の推進には県産材の需要拡大が重要であり、県産材を使用した住宅への支援や公共建築物等での利用促進のほか、新たな需要創出に向けてCLTの製造施設や不燃木材加工施設の整備等への支援を行うなど、さらなる利活用に取り組んでいきたい。

藤井 義弘

ふじい よしひろ

6期 自由民主党



パラカヌーの事前合宿誘致について

Q 日本カヌー連盟会長から、パラカヌー強豪国の木場潟誘致を働きかけたい旨の話があったが、事前合宿誘致に向けた意気込みを聞く。

A 年内にもバリアフリー仕様のトレーニング施設が完成し、誘致に向けての基盤がさらに充実する。木場潟の利便性や東京オリンピック・パラリンピックの競技会場と気象条件が近い等の優位性を日本カヌー連盟と連携してPRに努め、積極的に誘致に取り組むたい。

Q 小松空港の香港チャーター便の現状認識と定期便化に向けた取り組みを聞く。

A 好調な実績が評価されており、実績を積み重ねて香港での認知度向上を図り、航空会社との協議を進めていくことが重要である。県議会や福井県と連携して国際線拡充に努めたい。

石坂 修一

いしさか しゅういち

7期 未来石川



介護職員の確保について

Q 介護職員が不足していると聞か、現状をどのように認識しているのか。

A 平成24年から平成27年までの3年間で約2100人増の18200人程度となった。将来的に必要な約23000人の確保に向けて平成27年に策定した計画に基づき、行政と関係業界が一丸となって、取り組みをさらに加速させていく必要がある。

Q 企業主導型保育事業では有資格者の配置を50%以上に緩和する措置があり、保育の質への影響が危惧されるが、所見と対応を聞く。

A 待機児童解消の加速化を目的に平成28年度から国が設けた制度だが、事業を開始して1年不足のため、まずは県内外の施設設置状況や運営実態等について注視していきたい。

紐野 義昭

ひもの よしあき

7期 自由民主党



災害対応について

Q 県内で大規模地震が発生した場合の初動救助・救援体制を聞く。

A 避難所が被災した場合の近隣避難所への誘導、公共施設での受け入れや、他県との応援協定により生活必需品等の提供を受けられる体制を整えている。地域防災計画の再点検や防災訓練による検証を通じ、救援体制の充実強化に取り組むたい。

Q 県として保護司制度にどのように関わっていくのか。

A 保護司制度は国が所管する更生保護の一環だが、県としても更生保護関係団体に助成しているほか、永年功労保護司には知事感謝状の贈呈も行っている。今後とも更生保護関係団体と連携し、犯罪や非行のない明るい社会をつくるため努力したい。

稲村 建男

いなむら たけお

9期 自由民主党



東京国立近代美術館工芸館の本県への移転について

Q 工芸館の移転に向け、いま一度県民の理解と納得をいただくべきだが、所見を聞く。

A 機運の醸成を図るため、国立美術館と連携して名品展を毎年開催するとともに、平成29年度は工芸の祭典「21世紀鷹峯フォーラム」を名品展と同じ時期に開催する等、多彩な取り組みを通じて移転の効果について県内外への発信に努めたい。

Q 能登半島地震復興基金の運用益約3億円は国に返還することなく、例えば、のと里山空港の利用促進に活用してはどうか。

A そもそも能登地域の復興のための基金を運用して発生した果実であり、のと里山空港の利用促進など能登地域の振興に資する事業に活用すべきと考えている。

福村 章

ふくむら あきら

10期 自由民主党



新幹線敦賀開業に向けた対応について

Q 新幹線敦賀開業に向けて県と市町等が一体になって組織を立ち上げるべきだと思うがどうか。

A 新幹線金沢開業対策を担ってきた組織をベースに、蓄積したノウハウを最大限生かし、三大都市圏等からの誘客を強化するとともに、今後の状況変化や延伸に係る新たな課題にも柔軟に対応していきたい。

Q 県の海外戦略を総合的に推進するため、関係部局にまたがるプロジェクトチームをつくってはどうか。

A 東京オリンピックも見据え、海外誘客や県産品の販路拡大が大きなテーマになる。いろいろなニーズに応え、柔軟かつ機動的に対応できる体制をしっかりと構築していく必要があると考えている。

金原 博

かなはら ひろし

12期 未来石川



金沢港周辺の整備について

Q 県民に愛される港周辺の景観づくりのため、金沢港の照明を充実すべきだが、所見を聞く。

A 無量寺岸壁の整備にあたっては、照明も含め景観に十分配慮したもとなるよう、他港の整備事例も参考にしながら国と協議を進めたい。

Q 金沢港周辺に石川ならではの魅力を集積し、50m道路がパリのシャンゼリゼ通りのように賑わうことが夢だが、所見を聞く。

A すばらしい夢だと思うが、知事としては実現可能性も含めてしっかり足を地につけて対応しないといけない。金沢港の急激な変貌ぶりにうまく対応できるような受入体制の整備をしっかりと検討していく必要があると思う。

69組が参加！議員と交流し、議会を学びました

ふれあい親子県議会教室



1日目(8月17日)に参加した子どもたち

県議会の夏休み恒例行事となった「ふれあい親子県議会教室」を、8月17・18日に開催しました。合計69組の小学生とその保護者が議会庁舎を見て回ったり、議員と交流したりと内容盛りだくさん。参加者からは「議会の仕組みが分かった」「議員さんは話しやすい」などの声が聞かれ、県議会を身近に感じていただくきっかけとなったようです。



2日目(8月18日)に参加した子どもたち

TOPICS.1

議員に何でも聞いちゃおう

ふれあいトーク

常任委員会室では、議員になったきっかけや仕事の中身などを、議員に質問しました。いつもは質問をする立場の議員も、子どもたちからの質問に丁寧に答えるなど、活発な意見交換が行われました。



TOPICS.2

議長になった気分で宣言!

議場見学

県木の「あて」や郷土の花「クロユリ」をデザインした伝統的工芸品などを取り入れた議場を興味津々に見学しました。また、議長席に座って「本会議を始めます」と宣言し、議長気分も味わいました。



TOPICS.3

議員の皆さん、はじめまして

議員と名刺交換

議員執務室を回って、各議員と名刺交換をしました。初めての体験に少し緊張しながらも、元気に自己紹介する子どもたちの声があちこちから聞こえ、ほほえましい雰囲気に包まれました。



TOPICS.4

議長、副議長となごやかに

議長、副議長と話そう

米澤賢司議長、山口彦衛副議長それぞれの部屋を訪問しました。その後、議長応接室では、学校の様子など、身近な話題をなごやかに話し合い、みんなで記念写真を撮りました。



県議会の活動を伝える広報紙

県議会だより

第22号

編集・発行 / 石川県議会(年4回発行)
平成29年10月24日発行

県議会の傍聴や見学ができます!

●お問い合わせ 石川県議会事務局企画調査課

〒920-8580 金沢市鞍月1丁目1番地
TEL 076(225)1036 FAX 076(225)1037

石川県議会ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp/gikai/>

石川県議会

検索

県議会に対する
ご意見・ご提言を
お寄せください。

県議会では、県民の声を取り入れた運営に力を注いでいます。ご意見やご提言は、下記のE-mailからお送りいただけます。ぜひ皆さまの思いを、県議会にお伝え願います。



メールアドレス

gikai@pref.ishikawa.lg.jp